

(様式 5)

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立高岡工芸高等学校・教諭・深川雄也
- 2 研修期間 令和6年7月25日(木)～令和6年7月26日(金) 2日間
- 3 調査研究課題 教師と企業人との交流から「人間力」をもった生徒の育成につなげる
- 4 研修機関等 富山経済同友会
- 5 研修の概要

7月25日から26日の2日間、株式会社インテック大山研修センターで開催された教師と企業人との交流に参加した。企業人、教員が集う研修で、講師による講演や参加者同士の意見交換等を通して、人間力や自身のコミュニケーション力について学んだ。

(1) 講演①「人間力について考えよう！」 (株式会社MGG代表取締役社長 牧田 和樹 氏)
代表取締役社長として、多額の借金があった会社から無借金そして現在に至るまでの道のりについて講演していただいた。

- ・経営理念・ビジョンがいくらしっかりしたものであってもPDCAサイクルのD(実行)がうまくいかないと会社はうまく回らない。そのためには、人を動かす要件(しくみ)を考える必要がある。人を動かすためには、人間力のある人の情熱的・論理的な対応が必要である。
- ・人間力には、①人間関係の構築(思いやり・人脈など)と②存在意義の確立(自信など)が影響しており、特にいろいろな人との出会いが人間力を高めることにつながる。
- ・本や人からの情報を大切にしてきた。話をする際、相手が何を考えているか読むことや話をしていく際、相手の反応を見ることを意識してきた。また一方通行にならないよう、相手に話をさせることも重要である。
- ・教師は「社会」がお客さんである。
- ・人間力は伝播するので、教師の人間力が子どもの人間力を育てることにつながる。

(2) 講演②「自分らしく働く」 (YKK株式会社副社長 黒部事業所長 小林 聖子 氏)

小林氏がYKK株式会社に入社した当時は、社会的な差別があり、何を相談しても「無理」と言われる時代であった。そんな中でも、自分のやりたいことについて素直に向き合ってもらえ、周りの人にも自分の考えを伝えてきた。小林氏の情熱的な思いや周りとの人間関係から、周りの人が小林氏のために動いてくれ、「無理」と言われてきたことを可能にする経験をさせていただいた。その機会からいろいろな人との出会いがあり、たくさんの経験から、YKK株式会社における「女性初」となる役職を多く任された。

- ・「自分らしく働く」というのは、自分を知ることが必要で、自分が自分を一番好きに思えることが大事である。
- ・小林氏の話の中で、「何があっても運がよかったと思える。」というキーワードが印象的であった。

(3) 講演③「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。」

(株式会社ユーグレナ 代表取締役社長 出雲 充 氏)

出雲氏が18歳のときにバングラディッシュへ行った際、栄養失調で苦しんでいる子どもを目にした。自分で何かできないか考えた際、「ミドリムシで救おう」という大きなプロジェクトにチャレンジすることを決めた。このプロジェクトを進めながらも何度も失敗を繰り返すが、出雲氏は、成功することを確信しており、あきらめずに努力し続け、見事成功させた。また、不可能だと言われ続けた「バイオ燃料」についても成功させた。

- ・夢を現実にするためには「メンターとアンカー」そして、繰り返し努力する力が必要である。
- ・子どもにも失敗させる経験も必要である。失敗している過程が大事である。
- ・子どもにも自信をもたせるような経験が必要である。
- ・いろんな人と出会い、コミュニケーションを取りながら、他者の意見を大事にしてきた。
- ・常に強い思いで「夢」をもち続けている姿が非常に印象的であった。

(4) アクティビティ研修

(株式会社フクール 代表取締役社長 福崎 秀樹 氏)

アクティビティ研修では、一見不可能だと思われる課題への挑戦を通じて、チームワークや問題解決力を養う研修であり、身体や知能を用いた実践的な活動を通じて、自身のコミュニケーション力について理解することができる内容であった。学校現場において子供たちがチームワークや問題解決力を育むことが大切であるので、実際に体験できたことは非常に良かった。

課題には制限時間があり、制限時間を考えたうえで「何をしなければならないのか」、また課題内容を正しく読むことが大事であることを学んだ。さらに、今回のアクティビティ研修と「人間力」につながる講義内容が一致することが多くあり、自身に足りない「人間力」が何なのかを知る機会となった。

また「人が育まれるために必要な要素」についてグループワークを行い、生徒の「人間力」を育成につなげるため、他の先生方の意見をたくさん聞くことができ「気づき」の多い研修であった。育まれるために一番重要なのは「心」であることがグループでの意見となった。

(5) 研修を終えて

今回の研修は、「人とのつながりの大切さ」について考えさせられる機会となりました。今回の講演では、「人間力」について深く考えることができ、子どもたちの「人間力」の育成には、自分自身の「人間力」が影響することから、教員としてまず自分自身が変わらないといけないことを学びました。そのためには、多くの人とコミュニケーションをとることが重要であると考えます。いつもは挨拶をして終わっていたことが多くありましたが、+αコミュニケーションを取ってみるなど習慣化するためにも、毎日継続していきたいと思います。また、私が勤めている工業高校には「実習」という科目があり、生徒の「人間力」の育成の場があります。「人間力」というキーワードを大事にしながら、実習内容も含めて授業も改善していきたいと思います。

講演していただいた代表取締役社長の方々は、「夢」をもっておられました。子どもたちと関わる以上、教員も「夢」をもって子供たちに語ることも必要ではないかと感じました。その「夢」に向かって、あきらめずに努力し続けることで1人でも多くの子どもたちや周りの先生方にいい影響を与えていきたいと思います。

研修の中に、ディスカッションやグループワークをする機会がありました。グループの中には、企業人の方もおられ、1つ1つの意見が情熱的であり、「人間力」があるからこそ私自身が納得する場面が多くありました。また私自身コミュニケーションに対する力が足りていないことを痛感する研修でもありました。自己把握できたことは、非常に良い経験であったと感じ、生徒の育成のために私自身も成長すべきであると思いました。

今の世の中の変化は非常に速く感じます。子どもたちが社会に出て活躍する人になるためには、私たちの学校現場も世の中に合わせて変化し続ける必要があると考えます。そのためには、多くの人とコミュニケーションを取り、多くの人意見を聞き、同じ目標に向かって進んでくれる仲間が必要不可欠です。講演していただいた方々のキーワードを大事にしながら、今後の教員生活を送っていききたいと思います。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった管理職の方、富山県教育委員会並びに富山経済同友会の皆様に感謝申し上げます。

(6) 実践内容～「実習」から人間力の育成～

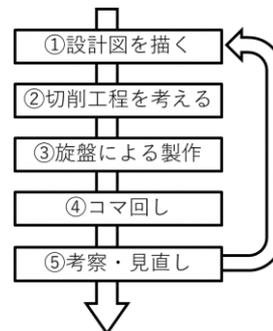
(a) 背景

今年度、私が実習で担当している旋盤実習は、与えられた図面を参考に製作物をつくる実習である。「人間力」というキーワードから生徒がより成長できるような実習内容を検討した。設計図を自分で考え、考えたものをつくり、さらにブラッシュアップすることで「人間力」の育成にもつながると考え、「オリジナルコマの製作」という実習内容で実践した。

(b) 実習内容

実習の目標は「回るコマを製作しよう」と生徒に伝え、以下の手順で実習を進める。

- ①オリジナルコマの設計図を考え、図面を描く。
 - ②コマをどのように切削していくか工程を考える。
 - ③切削工程を元に、旋盤を用いてコマを製作する。
 - ④製作したオリジナルコマを実際に回してみる。
 - ⑤コマ回しから考察し、設計図を見直す。
- ※より良いコマ製作のため、①～⑤を繰り返す。



(c) 生徒のアンケート結果 (18名)

<質問1>オリジナルコマの製作実習は楽しかったですか。

<回答1>「楽しかった」・・・94.4% (17名)

「どちらとも言えない」・・・5.6% (1名)

<質問2>「楽しかった」理由を教えてください。

<回答2>

- ・自分で形状やそれによる動作を考え、試行錯誤を繰り返すことでものづくりの楽しさを実感できたから
- ・自分で初めて設計を考えて作ったコマが回ったから
- ・よく回る、回しやすいコマにするための工夫が楽しかった。友達がどんな見た目のコマで、どれくらい回り、どのくらい回しやすいか見ているときも楽しかった
- ・班の人たちとコマを通してふれあえたから
- ・考えてものをつくれたから
- ・自分で回しやすい形をつくり、動かすというのが新鮮で楽しく感じたから
- ・自分でコマの設計をして実際に回るか回らないか試す過程がおもしろかった

(d) 考察

本実習では、自分で考えた設計図よりオリジナルコマを製作し、それを活用する（遊ぶ）ことで、生徒同士でコミュニケーションを取る時間や教員に対して自発的な質問が多くなった。また一人ひとり違うコマを製作しているため、自分が製作したコマを誰かに遊んでもらえることで、生徒はやりがいをもって取り組むことができ、さらに意欲的に実習している様子を感じ取ることができた。

コマ製作では重心の調整が難しいため、うまく回らない生徒も多くいた。その後、試行錯誤を繰り返していく中で、うまく回るコマを製作することができた生徒がでてきた。失敗しても何度も挑戦できるような設定をすることができたため、全員が諦めずに最後まで挑戦してくれた。

生徒のアンケート結果より、考えさせる時間作り、活用できるものづくり（実習）にすることで、生徒の力の育成につながることが分かった。

今後は、「人間力」というキーワードを大事にしながら実習内容も含めて検討していきたいと改めて実感した。また、他の先生とコミュニケーションも取りながら、同じ目標に向かって取り組んでもらえるよう自身の「人間力」を磨き、生徒の成長につながるしかけづくりに挑戦していきたいと改めて強く思うことができた。



オリジナルコマ作品